

第5回 いなげボッチャカップ 大会申し合せ事項

1. 競技規則

本大会は、「日本ボッチャ協会競技規則 2021-2024 V.2」及び大会申し合せ事項によって実施する。

2. 競技方法

- ・大会は団体戦とし、各コート (A～Dコート) での総当たり戦を行い、各コート上位 1 チームが優勝。
2位、3位決定戦は行わない。
- ・初級～上級などのクラス区分は行わない。
- ・1 チーム 3～4 人とする。
- ・1 エンドにつき参加選手は 3 名とする。
- ・エンド途中の選手交代は認めず、1 エンドと 2 エンドの間のみ可とする。

3. 総当たり戦

- ・各コート 4 チームで総当たり戦を行い、リーグ内の順位決定方法は、①勝ち数、②総得失点差、
③総得点、④総勝ちエンド数の多いチームとする。
- ・それでも決まらない場合は、各チーム代表者による 1 球のみのタイブレークにより決定する。
- ・先攻 (赤ボール)・後攻 (青ボール) は、代表者のジャンケンによって決定する。

4. 使用コート・ゲーム数・時間

- ・コート寸法：横 6 m × 縦 12.5 m。
- ・1 ゲーム：2 エンド。
- ・持ち時間：制限は設けないが、進行表に従いスムーズな試合進行を心掛ける。
- ・投球練習：各ゲーム 1 エンド目の開始前に 1 人 2 球投球練習でき、2 エンド目は無し。

5. ボールの投球

- ・ボール投球時、スローイングボックスラインに触れている場合、審判から口頭注意する。
- ・スローイングボックスラインを踏んだまま投球した場合、審判から口頭注意する。
- ・ボールは投球する選手のみが触れることができ、自身のチームの投球順であっても、投球する選手以外は、ボールに触ることは認められない。投球者以外がボールに触れていた場合、審判から口頭注意する。
- ・同時に複数のボールが投球された場合、そのボールは審判によって選手の元に戻し、投球をやり直す。
- ・投球する選手以外はスローイングボックス内、スローイングラインから離れて待機する。ただし投球補助者は除く。

6. コートから出たボール

- ・全てのボールは、ラインに触れたりラインを超えていた場合は、コート外に出たものとみなし、審判によって取り除く。

7. 補助具等の使用

- ・投球時にランプを使用する場合、ランプの先がスローラインボックスラインを越えてはならない。
- ・補助員は、スローラインボックス内から出て、コート内を見回ることは出来ない。

8. コミュニケーション

- ・チームメンバー内でのコミュニケーション（会話）は認めるが、相手チームに対して迷惑になるような言動が見受けられた場合は、審判から口頭注意する。